

◆水明インターネット句会◆																				令和五年九月
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
札所への百の石段こぼれ萩	来歴は語らぬ女吾亦紅	結界に闇迫り来し白牡丹	袋掛け安請け合いし首痛め	風吹けば風にかがやきゑのこ草	車座は平和の形新酒酌む	老いのひとりふゆる近隣萩の雨	牧場のアイスおいしや蕎麦の花	鉦叩き鳴いて死ぬまで虫の村	秋茄子をほめて両手にもらひけり	秋の夜やジャニーギターの弾き語り	また一つ秋の蚊のあと傷となり	プログラム翳す父母席運動会	閑伽桶に無造作に生け彼岸花	戸の外は無料のサウナ残暑です	登校の自転車の風泡立ち草	妻逝きて日に日にしみる虫の声	道聞いてよりの道づれ爽やかや	送り火を終へて手酌の厨かな	日没を待ちかねてホツと息をつく	

◆水明インターネット句会◆																				令和五年九月																			
21	なびきつつ秋桜みなうつむかず	22	黄泉の国ではありません曼珠沙華	23	満月や杯交わす青畳	24	五号車の車窓の空に碇星	25	聞き流し妻の小言や秋の風	26	鴟ひより高音の囁れるオペラ歌手	27	ガウデイの塔より高き秋の空	28	そのメール未読で消す日秋立ちぬ	29	西瓜取り種吹き飛ばす縁の先	30	染付の二色の世界夏の空	31	睡蓮の沼渡り継ぐ小橋かな	32	吹き流るる雲早送り颱風来	33	一湾を統ぶる高みや秋の色	34	濁り酒濁りの深みにはまり込む	35	稲架組し砥石の鎌も弾みをり	36	大西日フェンス間際に捕るフライ	37	天の神そして地の神豊の秋	38	遠花火一年坊主あぐら好し	39	信濃路の草原早くも秋の風	40	たこ焼きを丸くくるくる良夜かな

◆水明インターネット句会◆																				令和五年九月
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	
いくたびも出でて愛でるや今日の月	湯河原の夕風穏し荒走り	口下手の友と思えぬ菊自慢	宵闇や既読の二字を待ちにけり	秋暑し処分に躊躇広辞苑	風色のいまだ変はらず曼殊沙華	御巢鷹のケルン噛みゐる秋茜	馴れ初めの話に戻る夜長かな	眠れぬと汗する夢や籠の虫	いろいろの墓の傍ら彼岸花	せめぎ合ふ鯉の太さよ池の秋	父となりリレー走るや運動会	貝割菜ひとり寝で聴くラブソング	ワイン蔵葡萄の畝の続く中	銀木犀不思議や鼻に穴ふたつ	丸い葉に宿る雨粒目に涼し	行儀よく並ぶ朝顔鉢二つ	名月や心無となり空となり	青銅の龍の口より秋の水	四ツ目垣の雫震へる秋時雨	

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	◆水明インターネット句会◆	令和五年九月
洒落と粹なりし話芸や扇子閉づ	夕暮れの小児病棟残暑かな	衣被父恋ふことも無かりしが	放物線描き寄越せし青蜜柑	秋めきて浜の先まで人気なし	窓映る影の後ろの秋の風	萩揺るる下風通る水戸の庭	舟歌は筑後訛りよ水の秋	抱えたる膝を月影露わにす	かたちあるものなどなくて鰯雲	銀色に伸びる秋刀魚を切りあぐね	秋暑し吹き出すミスト救世主	帰宅する足の速まる茸飯	独唱に続く合唱虫の闇	ガバリと言つて何も言はない秋の水	子の髪の指通り良き今朝の秋	蒸し暑くはありませんか鶏頭花	汁の具はゴロゴロ浮ぶ今朝の茄子	朝の風既に秋気を含みをり	我が座る迷ひの窓へ秋ほたる		

																84	83	82	81	◆水明インターネット句会◆ 令和五年九月
																鉦叩数へ初むれば叩き止み	冬瓜に刃を入れられぬ独り者	一位の実熟れて新居に季巡る	曼珠沙華プリンシパルのトゥシューズ	